魚類養殖指導（スギの養殖指導）

多和田　真　周

1．目　的

前年度から台湾より稚魚を導入して養殖を開始している。新魚種であるため養殖技術の安定。

2．対　象

養殖グループ

3．協力機関

県漁連・沖縄県漁業振興基金

4．経　過

６月12日に県漁連会議室において外国種苗導入検討会（振興基金・県漁連・仲介業者）をひらき、導入日時・方法について協議、現地における種苗生産状況、種苗の大きさ等事前に情報を得ることを確認する。

６月26・30日に第１回目のスギ稚魚の種苗配布、県漁連が受け入れ窓口となり、台湾澎湖島で人工的に種苗生産されたスギ稚魚をそれぞれ要望尾数づつ配布した。（６／26・伊江：3,300尾、羽地＝大宜味：2,090尾、今帰仁：1,100尾、本部：2,090尾、名護：2,640尾、読谷：3,080尾、知念：5,280尾、糸満：2,090尾、６／30・羽地＝運天原：20,020尾、水試：防疫対策用110尾）２回の輸送で約42,000尾を配布、箱の損壊が10数個みられ、酸素漏れとみられるビニール袋がいくつか有り、斃死数は５％程度。スギ稚魚の平均全長は83mm（Ｈ８年導入稚魚は平均全長が4.6cm大きさ）で前年度の約２倍の大きさであった。活力も良好で輸送時間が10時間以内に短縮されたことにより、輸送歩留まりの向上につながったものと思われる。

第２回目以降の種苗導入先はＨ８年同様台湾屏東懸林邊郷から導入、９月16日（知念・本部・羽地：10,400尾）９月18日（名護・今帰仁・羽地：13,120尾）10月６日（伊江・浦添・糸満：10,400尾）10月７日（羽地・大宜見：10,400尾）10月13日（羽地・大宜見：20,800尾）10月30日（大宜見：12,800尾）

以上延べ輸送日数８日間、延べ導入稚魚数は110,290尾で１週間後の歩減数が22,658尾あり、通算歩留まりは79％であった。

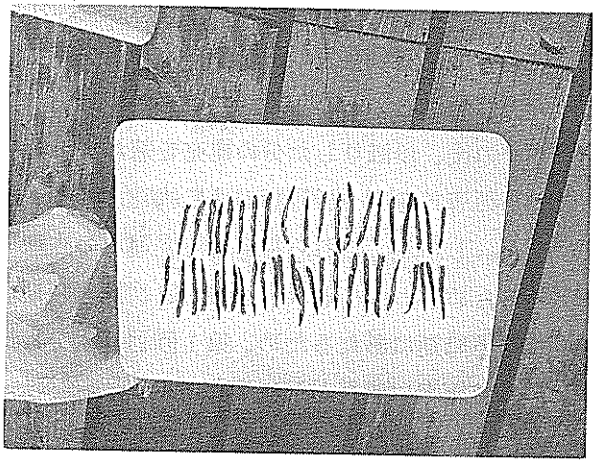
飼育については第１回目６月導入分は成長も良好で順調に推移したが８～９月は台風の来襲、接近が特に多く、その影響により生け簀枠の損壊、生け簀網の破損により、スギ稚魚の斃死逃亡等で生け簀放養分の50％の歩減りが生じたものと思われる。

その後、歩減りした分の補充を兼ねて、第２回目の導入を９～10月にかけて約78,000尾輸送した。しかし、これら種苗は時期遅れの生産であるためか、大小差が大きいこと、飼育時期が水温下降期にあたるため、第１回目導入分と比較して極端に成長が遅い傾向にある。

次年度種苗導入については梅雨明けの時期から２ヶ月間が良く、９月以降の導入は差し控えた方がよいと思われる。

台湾産クロカンパチ稚魚の輸送
ハッポウステロール製箱にビニール袋２袋にそれぞれ55尾づつ約110尾収容

航空輸送されたクロカンパチ稚魚の小割網生け簀への開箱放養作業稚魚が活発に遊泳するまで何回立ち会っても心配である。



箱の破損・ビニール袋の破損等により酸欠状態で斃死したクロカンパチ稚魚

クロカンパチの給餌風景食欲は旺盛その分成長速度はすばらしい